

高設栽培装置を用いたイチゴ苗の 効率的な 2 段階増殖法

園芸研究所

1 背景、目的

イチゴの高設採苗は、従来の地床での採苗に比べて、狭い場所で多くの苗を作ることができる効率的な育苗法です。

しかし、高設栽培装置は、培地の量が少ないために、乾き過ぎや湿り過ぎを起こさないよう給液管理をこまめに行う必要があります。

そこで、省力的に給液管理を行うことができるよう高設栽培装置の改良を行い、さらに効率良く苗を作るための 2 段階増殖法を開発しました。

2 成果の概要、特徴

1) イチゴの高設栽培用容器（ダブルベリーラックコンテナ）を用い、点滴型かん水チューブで給液するとともに容器底部に養液を溜める部分を設け、溜まった養液を揚水シートで親株の根へ補助的に給液するように高設栽培装置の改良をしたもので、給液回数が少なく養液濃度が均一にできるようになりました。

2) 改良した高設栽培装置に、2 月で 5 週間低温処理した株を、10月中旬に定植し、1 月に発生した子苗の基部を高吸水シートで包み発根させ、別の高設栽培装置に定植します。

3) 10月中旬に定植した親株 1 株から 1 月下旬までに 7 株の子苗が採れ、この子苗を 1 月下旬に定植すると 6 月中旬までに子苗 1 株から 35 株の苗が発生します。つまり、親株 1 株から約 250 株の苗を作ることができます。

これにより本ほ 10 a 当たりの親株数は 35 株程度でよく、従来の高設採苗に比べて親株数を 6 分の 1 程度に減少できます。

3 主要なデータなど

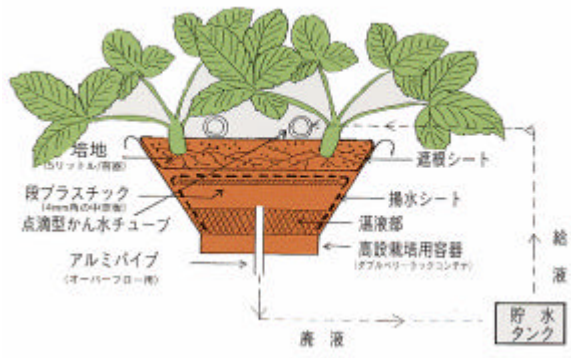


図1 栽培装置の概要

写真1 子苗の発生状況

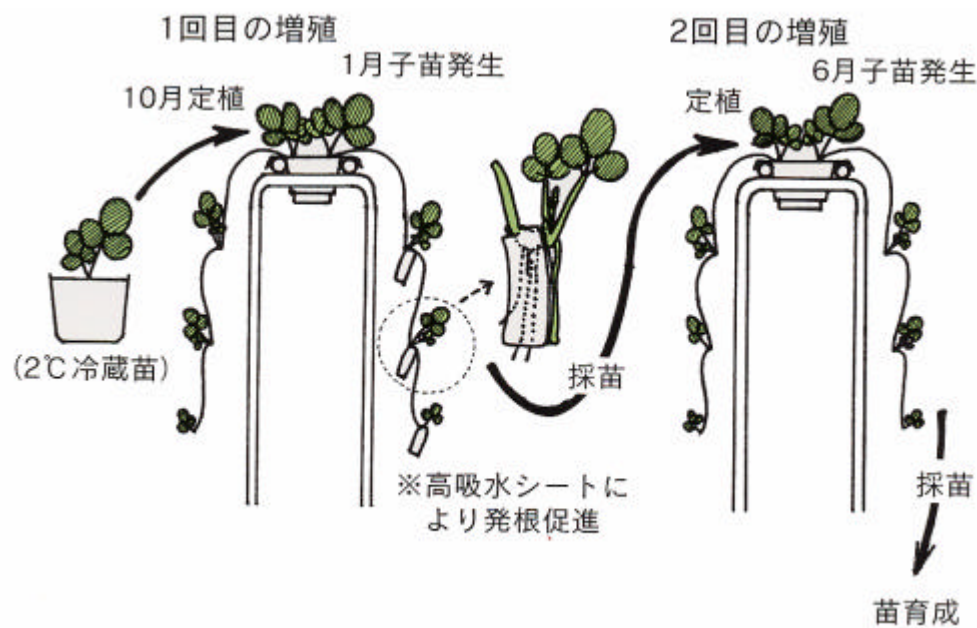


図2 子苗の2段階増殖の模式図

表1 1回目の増殖での子苗発生数
(親株1株当たり)

品種	1月14日	1月31日	2月10日
	株	株	株
とよのか	5.5	6.8	9.0
さちのか	8.3	10.3	12.4

表2 2回目の増殖での子苗発生数
(定植した子苗1株当たり)

品種	5月9日	5月25日	6月13日
	株	株	株
とよのか	8.7	19.4	35.0
さちのか	8.6	17.6	40.0